

長生村長賞

おおき ようこ
大木 葉子

娘へ

人は生まれ来る時、親を選べない。その事が貴女にとって悲運だったかもしれない。

まさか自分の母親が、突然病に倒れ、障害者になるなんて思いもしなかったでしょう。

母である私は、障害のせいで、まだ小学生だった貴女の一番遊びたいさかりの時間を奪ってしまいました。

楽しそうに遊ぶ友達を尻目に、貴女は、私の世話をしてくれたね。

あの遠足の朝だって、貴女は、左半身を悪くした私が、おにぎりをうまく作れない事を知っていて、コンビニのおにぎりを買って行くと言い出したよね。

「ゴメンネ」という私に貴女は返事もせずに出かけて行ったよね。

こんな母親なんていないと思ったでしょう？

母親らしい事が何も出来なくなってしまったけれど、

私はいつも、貴女を大切に想い貴女の笑顔を祈っています。

そんな私がいる事を、どんな時も忘れずに、

これからの人生を歩んで下さい

母より

(東京都／58歳)